

盛岡城遠曲輪跡第 22・23 次調査出土の近現代ガラス瓶

盛岡市遺跡の学び館 津 嶋 知 弘

〔キーワード：近現代遺物、埋蔵文化財、ガラス瓶、代用陶磁器、屋敷地、広告チラシ〕

1. はじめに

新型コロナウイルス感染症拡大への対応が徐々に進む中、令和 3 年(2021)の考古学・歴史学界主要トピックの一つが、東京都港区の高輪築堤跡の保存問題であった。JR 東日本による「品川開発プロジェクト」に伴う発掘調査で、明治初頭に築かれた鉄道遺構「高輪築堤」が 1.3km にわたり明らかとなり、埋もれていた近代化遺産が一躍注目を集めた。令和 3 年(2021)2 月の文部科学大臣による現地視察を契機として、JR 東日本が現地保存と決定した第 7 橋梁と 120m 分の築堤だけではあるが異例のスピードで国史跡指定となった（港区教育委員会 2022）。



高輪築堤石組遺構と三代歌川広重錦絵（港区ウェブサイトより）

このように、近代化遺産や産業遺産、戦争遺跡に対する市民や研究者の関心が高まっている一方、その他の近現代遺跡については、平成 10 年(1998)の文化庁次長通知「埋蔵文化財の保護と発掘調査の円滑化等について」（以下「円滑化等通知」）によって「地域にとって特に重要な遺跡」以外は「埋蔵文化財として扱う遺跡の範囲」の定義から外れることとなっている。このため、この通知を根拠として発掘調査の期間や経費が徹底的に重視されると、「周知の埋蔵文化財包含地」での発掘調査でも近現代遺物は回収されず、遺構は攪乱として詳細な記録は残されない（また仮に回収・記録されても発掘報告書に掲載されない）。実際、円滑化等通知後に調査・報告事例が減少しているとの評価（櫻井 2007）がある。

本稿は、近現代遺物として特徴的なガラス瓶に着目して岩手県内の発掘調査報告書掲載状況と、盛岡市教育委員会（遺跡の学び館）の取り組みを紹介した上で、筆者が担当した盛岡城遠曲輪跡第 22・23 次調査の発掘報告書（盛岡市教育委員会ほか 2022）で別稿報告とした近現代ガラス瓶と、その関連資料の紹介を行うものである。

2. 岩手県内の近現代ガラス瓶の発掘調査報告書掲載状況

公益財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター（以下「県埋文」）刊行、及び岩手県内市町村

第1表 近現代ガラス瓶の発掘調査報告書掲載がある岩手県内遺跡一覧（県埋文・市町村教委別、刊行年順）

No.	遺跡名	所在 市町村	調査 機関	調査 年	ガラス瓶種別等	掲載 点数	観察表	実測図	拓本	モノクロ 写真	カラー 写真	刊行年	報告書	備考
1	下構遺跡 (2次)	平泉町	県埋文	2002	薬小瓶、インク瓶、化粧クリーム瓶、樟油瓶、哺乳瓶、薬瓶、清酒瓶、牛乳瓶、サイダー瓶、ワイン瓶、ビール瓶	58	○	○	○	個別	集合	2004	県446集	近世-近現代屋敷地
2	河崎の櫓 擬定地	一関市 川崎	県埋文	2001- 2004	カルピス瓶、調味料瓶、化粧水瓶、化粧クリーム瓶、インク瓶、薬瓶、目薬瓶、食品瓶、ビール瓶、サイダー瓶	23	○	○	×	×	×	2006	県474集	近世-近現代屋敷地
3	押切遺跡	奥州市 衣川	県埋文	2004	化粧クリーム瓶、糖瓶、インク瓶、目薬瓶、薬瓶、樟油瓶、調味料瓶、食品瓶、汽車茶瓶、みかん水瓶、牛乳瓶、サイダー瓶、ウイスキー瓶、ビール瓶、機械栓清酒瓶	43	○	○	×	個別	×	2007	県493集	近代鍛冶屋敷地
4	川口I遺跡 (2次)	二戸市	県埋文	2006	ビール瓶	1	×	×	×	個別	×	2007	県521集	近世奥州道中沿集落地
5	八木沢II 遺跡	宮古市	県埋文	2007	ビール瓶	1	○	○	○	個別	×	2008	県528集	近現代炭窯
6	坪淵II遺跡	奥州市 胆沢	県埋文	2007- 2008	染料瓶	1	×	×	×	個別	×	2010	県554集	近現代墓域
7	合野遺跡	奥州市 前沢	県埋文	2008	目薬瓶	1	×	×	×	個別	×	2010	県570集	近世社祠・集落地
8	向中野館遺跡 (12・13次)	盛岡市	県埋文	2011	インク瓶、ビール瓶	2	○	○	×	×	×	2011	県577集	中世居館・近世墓域
9	矢盛遺跡 (23・24次)	盛岡市	県埋文	2009	ビール瓶、薬瓶、食品瓶、インク瓶、化粧クリーム瓶、蓋	17	○	○ (調査区 外×)	×	個別 (調査区 外集合)	×	2011	県578集	近世-近代屋敷地
10	南日詰小路口II 遺跡	紫波町	県埋文	2009	ビール瓶(口縁部のみ)	1	○	○	×	個別	×	2011	県584集	近世-近現代屋敷地
11	尾肝要I遺跡	田野畑村	県埋文	2010	ビール瓶	1	×	×	×	個別	×	2012	県592集	中世鍛冶工房、近世屋敷地・墓域
12	堤遺跡	奥州市 胆沢	県埋文	2011	ソース瓶	1	○	○	×	個別	×	2013	県615集	近世集落
13	根井沢穴田IV 遺跡	宮古市	県埋文	2015- 2016	ビール瓶、サイダー瓶	3	○	○	○	個別	×	2018	県683集	近代家畜墓域、河本2020にサイダー瓶の別稿あり
14	浜川目沢田I 遺跡	山田町	県埋文	2014	ビール瓶	1	○	○	○	個別	×	2018	県689集	縄文中期・晩期集落
15	町屋敷遺跡	奥州市 水沢	県埋文	2017	化粧クリーム瓶、ボマード瓶、染料瓶、糖瓶、インク瓶、化粧水瓶、食品瓶、ヤクルト瓶、薬瓶、ビール瓶、代用陶磁器瓶	17	○	○	×	個別	集合	2019	県693集	近世-近代屋敷地
16	青猿I遺跡	宮古市	県埋文	2015- 2017	ビール瓶	1	○	○	○	個別	×	2020	県711集	近代家畜墓域
17	間木戸I遺跡	山田町	県埋文	2013- 2015	食品瓶、ヤクルト瓶	2	○	○	×	個別	×	2021	県723集	近世鉄生産関連
県埋文小計						174								
No.	遺跡名	所在 市町村	調査 機関	調査 年	ガラス瓶種別等	点数	観察表	実測図	拓本	モノクロ 写真	カラー 写真	刊行年	報告書	備考
18	下植田遺跡	奥州市 水沢	市埋文	1999	染料瓶、蓋	3	×	○	×	個別	集合	2000	水沢市 14集	近世屋敷地
19	志波城跡 (107次)	盛岡市	市教委	2012	ビール瓶、サイダー瓶、牛乳瓶、清酒瓶、インク瓶、薬品瓶、一般用薬瓶	9	×	×	×	×	ビール瓶は個別、他は集合	2016	市教委 2016	国指定史跡志波城跡用地取得地（近現代屋敷地）
20	朴館遺跡	一戸町	町教委	2015- 2016	薬瓶、化粧水瓶、食品瓶、のり瓶、インク瓶、牛乳瓶、機械栓清酒瓶、サイダー瓶、ビール瓶	18	○	○	○	個別	×	2017	町72集	国重要文化財旧朴館家住宅（近世-近代）敷地
21	向中野幅遺跡 (3・4次)	盛岡市	市教委	2017- 2018	みかん水瓶	1	○	×	×	×	個別	2019	市教委 2019	中近世-近現代農耕地
22	細谷地遺跡 (37次)	盛岡市	市教委	2017	ビール瓶、ワイン瓶、日本酒瓶、ウイスキー瓶、サイダー瓶、ジュース瓶、乳性飲料瓶、ニッキ水瓶、牛乳瓶、ソース瓶、カレー粉瓶、コショウ瓶、うま味調味料瓶、佃煮瓶、ふりかけ瓶、食用油脂瓶、金平糖瓶、薬品瓶、殺虫剤瓶、医療用薬瓶、一般用薬瓶、目薬瓶、栄養保健剤瓶、軟膏瓶、化粧水瓶、樟油瓶、整髪用瓶、化粧クリーム瓶、ボマード瓶、インク瓶、靴墨瓶、白髪染瓶、染料瓶、食紅瓶、代用陶磁器瓶	129	○	×	○	×	個別	2020	市教委 2020	近世-近現代農家屋敷地
23	細谷地遺跡 (38次)	盛岡市	市教委	2018	ワイン瓶、ニッキ水瓶、牛乳瓶、コショウ瓶、うま味調味料瓶、佃煮瓶、食品瓶、医療用薬瓶、一般用薬瓶、目薬瓶、薬品瓶、化粧水瓶、樟油瓶、化粧クリーム瓶、ボマード瓶、インク瓶、染料瓶、代用陶磁器瓶	35	○	×	○	×	個別	2021	市教委 2021a	近世-近現代農家屋敷地
24	細谷地遺跡 (40次)	盛岡市	市教委	2019	ビール瓶、日本酒瓶、ウイスキー瓶、サイダー瓶、乳性飲料瓶、みかん水瓶、ラムネ瓶、牛乳瓶、ヨーグルト瓶、ケチャップ瓶、マヨネーズ瓶、佃煮瓶、一般用薬瓶、殺虫剤瓶、樟油瓶、化粧クリーム瓶、ボマード瓶、糖瓶、インク瓶、代用陶磁器瓶	46	○	×	○	×	個別	2021	市教委 2021a	近世-近現代農家屋敷地
25	細谷地遺跡 (41次)	盛岡市	市教委	2020	ビール瓶、機械栓清酒瓶、サイダー瓶、みかん水瓶、ニッキ水瓶、牛乳瓶、カレー粉瓶、金平糖瓶、食品瓶、医療用薬瓶、一般用薬瓶、軟膏瓶、目薬瓶、殺虫剤瓶、白粉瓶、化粧水瓶、樟油瓶、化粧クリーム瓶、ボマード瓶、整髪用瓶、歯磨き粉瓶、インク瓶、糖瓶、靴墨瓶、染料瓶、オイル瓶、代用陶磁器瓶	83	○	×	○	×	個別	2021	市教委 2021b	近世-近現代農家屋敷地
市町村小計						324								
県埋文・市町村合計						498								

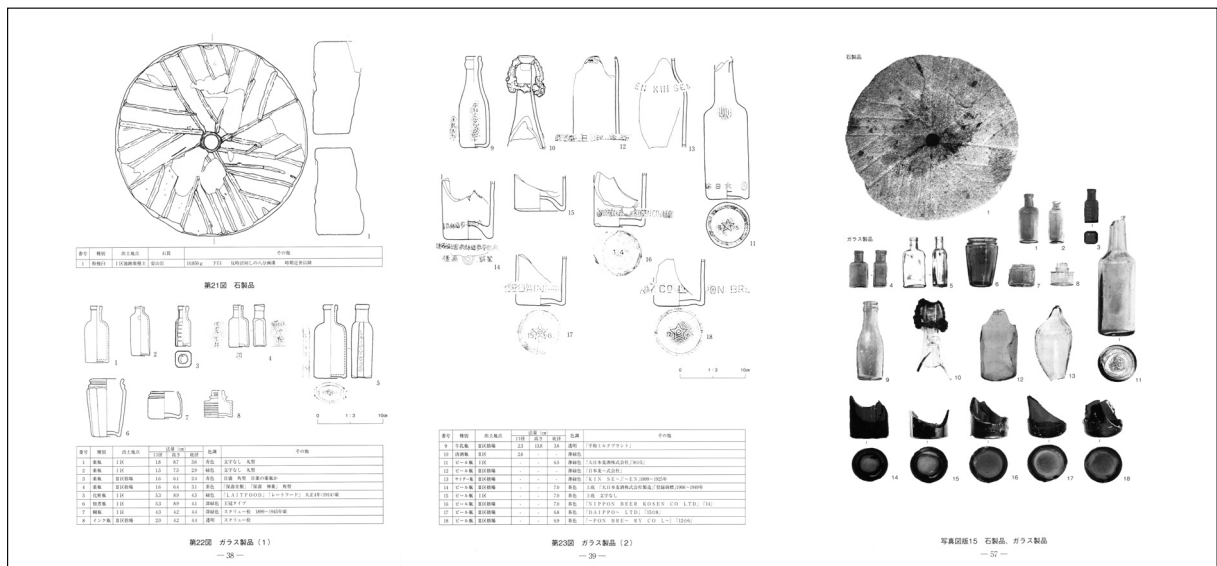
教委刊行の発掘調査報告書を奈良文化財研究所が運用するウェブサイト「全国遺跡報告総覧」で検索し、写真や実測図等で近現代ガラス瓶（代用陶磁器瓶含む）の掲載があるものをまとめたのが第1表である。

県内全体では、2000 年以降 2021 年までに 25 件の発掘調査報告書に近現代ガラス瓶 498 点が掲載されている。県埋文では、2004 年以降 17 件の発掘調査報告書に近現代ガラス瓶 174 点の掲載がある。平泉町下構遺跡（第 2 次）の発掘調査報告書が最も早く、58 点のガラス瓶について個別に観察表、実測図、拓本、モノクロ写真、カラーの集合写真が掲載され、抄録にも記載がある。下構遺跡を含め 10 点以上の掲載があるのは、一関市川崎河崎の柵擬定地（2006 年刊行）、奥州市衣川押切遺跡（2007 年刊行）、盛岡市矢盛遺跡（23・24 次、2011 年刊行）、奥州市水沢町屋遺跡（2019 年刊行）の 5 件であるが、拓本やカラー写真がない報告書もある。市町村では、県埋文より早い 2000 年以降 8 件の発掘調査報告書に近現代ガラス瓶 324 点の掲載がある。10 点以上の掲載があるのは一戸町朴館遺跡（2017 年刊行）と後述する盛岡市細谷地遺跡（37・38・40・41 次、2020・2021 年刊行）の 5 件である。

県埋文・市町村とも、出土点数が多い発掘調査では、周知の埋蔵文化財包蔵地で近世～近現代の大きな屋敷地が調査対象となっている点が共通している。なお岩手県内の近代化遺産として、釜石市の国指定史跡橋野高炉跡が著名であり、世界遺産「明治日本の産業革命遺産」（2015 年登録）の構成資産の一つ（橋野鉄鉱山）となっている。近年、釜石市が範囲内容確認調査や災害復旧事業に伴う発掘調査を実施しており、鉄製品関係、煉瓦、陶磁器類の出土報告はあるが、ガラス瓶については記載がない。



下構遺跡発掘調査報告書の近現代ガラス瓶掲載例（県埋文2004より）



朴館遺跡発掘調査報告書の近現代ガラス瓶掲載例（一戸町教委2017より）

3. 盛岡市教育委員会（遺跡の学び館）の取り組み

埋蔵文化財センター機能を持つ博物館施設「盛岡市遺跡の学び館」では、平成 23 年度テーマ展「もりおかの近代遺産」を開催、市内に残る国重要文化財・登録有形文化財等の近代化遺産と、それまで採集されてきた煉瓦やガラス瓶等の資料を初めて紹介し、関連する 3 回の学芸講座を実施した（神原 2011）。これを受け、筆者は翌平成 24 年度に野外調査を担当した国指定史跡志波城跡第 107 次調査出土近現代遺物（陶磁器、ガラス瓶等）を埋蔵文化財として回収、発掘調査報告書に遺物写真を掲載し、出土した「サクラビール」ガラス瓶と関連資料の紹介を行った（盛岡市教育委員会 2016）。

その後、盛岡市施工の道明地区土地区画整理事業に伴い実施された細谷地遺跡第 37・38・40・41 次調査（平成 29～令和 2 年度）で廃棄土坑から近現代陶磁器・ガラス瓶等が多量に出土し、野外調査担当者の判断で埋蔵文化財として回収された。筆者は、その発掘報告書作成の担当になると同時に、令和元年度テーマ展「透きとおった記録ーガラスに見る明治・大正・昭和ー」を担当。細谷地遺跡出土ガラス瓶や市内採集ガラス瓶とともに、当時の広告チラシやポスター等の関連資料を紹介し、関連する 2 回の学芸講座が実施された。

細谷地遺跡の発掘調査報告書作成は、盛岡市教育委員会が近現代遺物を埋蔵文化財として掲載するテストケースとして資料整理と報告書作成を行った（盛岡市・盛岡市教委 2020・2021a・2021b）。ガラス瓶の資料化にあたっては、経費・時間の縮減と情報の最大化を図るため、以下の方法を採用した。

- ①実測図化は行わず、デジタルカメラによるカラー写真撮影と陽刻（エンボス）の拓本のみを行う。
- ②写真図版はカラーとし、ガラス瓶写真と拓本(スケール入り)を同じ縮尺で並べ、高さを明記する。
- ③観察表を掲載し、寸法・特徴・年代等を明記する。



遺跡の学び館令和元年度テーマ展ポスター



細谷地遺跡発掘調査報告書の近現代ガラス瓶掲載例（盛岡市・盛岡市教委2021bより）

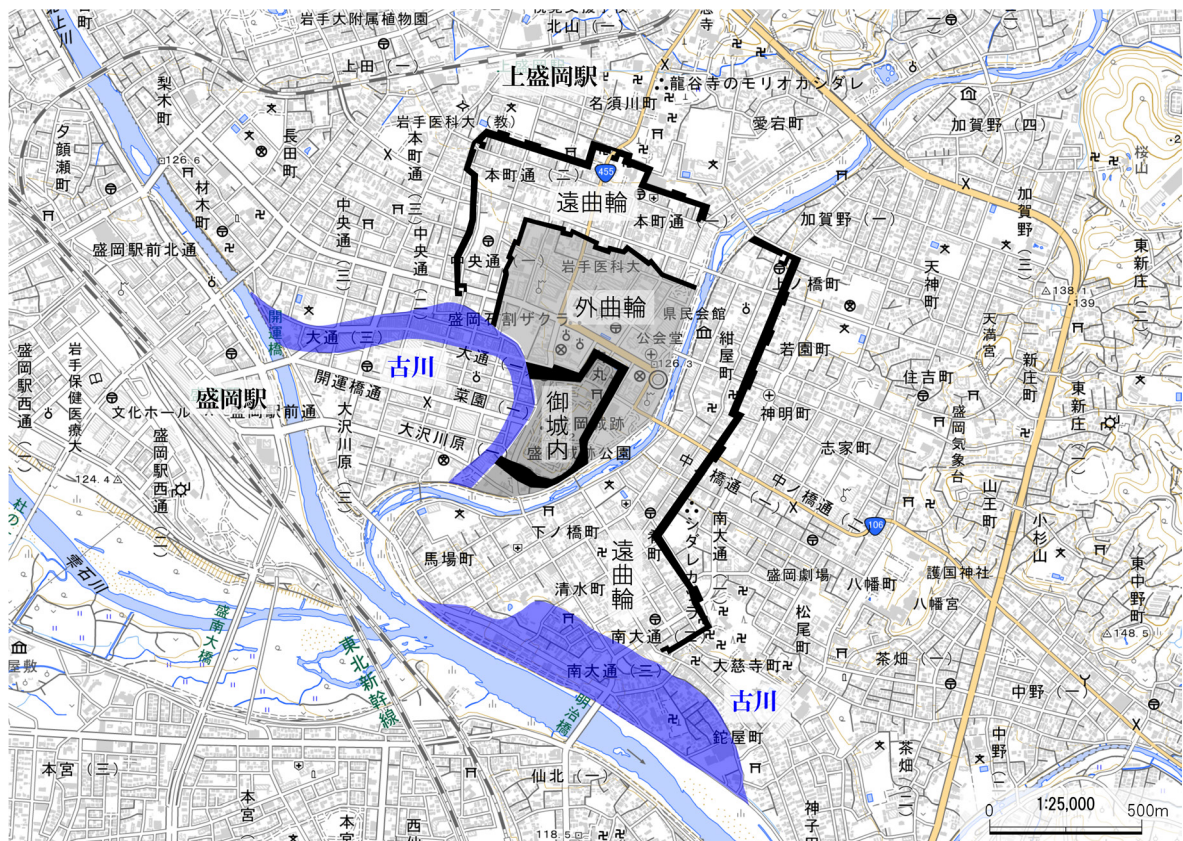
資料を実測図化しないことについての批判やデメリットは承知しているが、実測図化の委託経費や人件費等を報告書のカラー写真図版の印刷経費に振り向けた方が、現時点では情報量（色調、形態、陽刻等）を最大化できると筆者は考えている。また、掲載外も含めてガラス瓶の細分類ごとに個体数を集計して組成をグラフ化し、その特徴から関東の都市近郊農村部と類似することを指摘した。

4. 盛岡城遠曲輪跡第22・23次調査出土の近現代ガラス瓶

(1) 遺跡と調査の概要

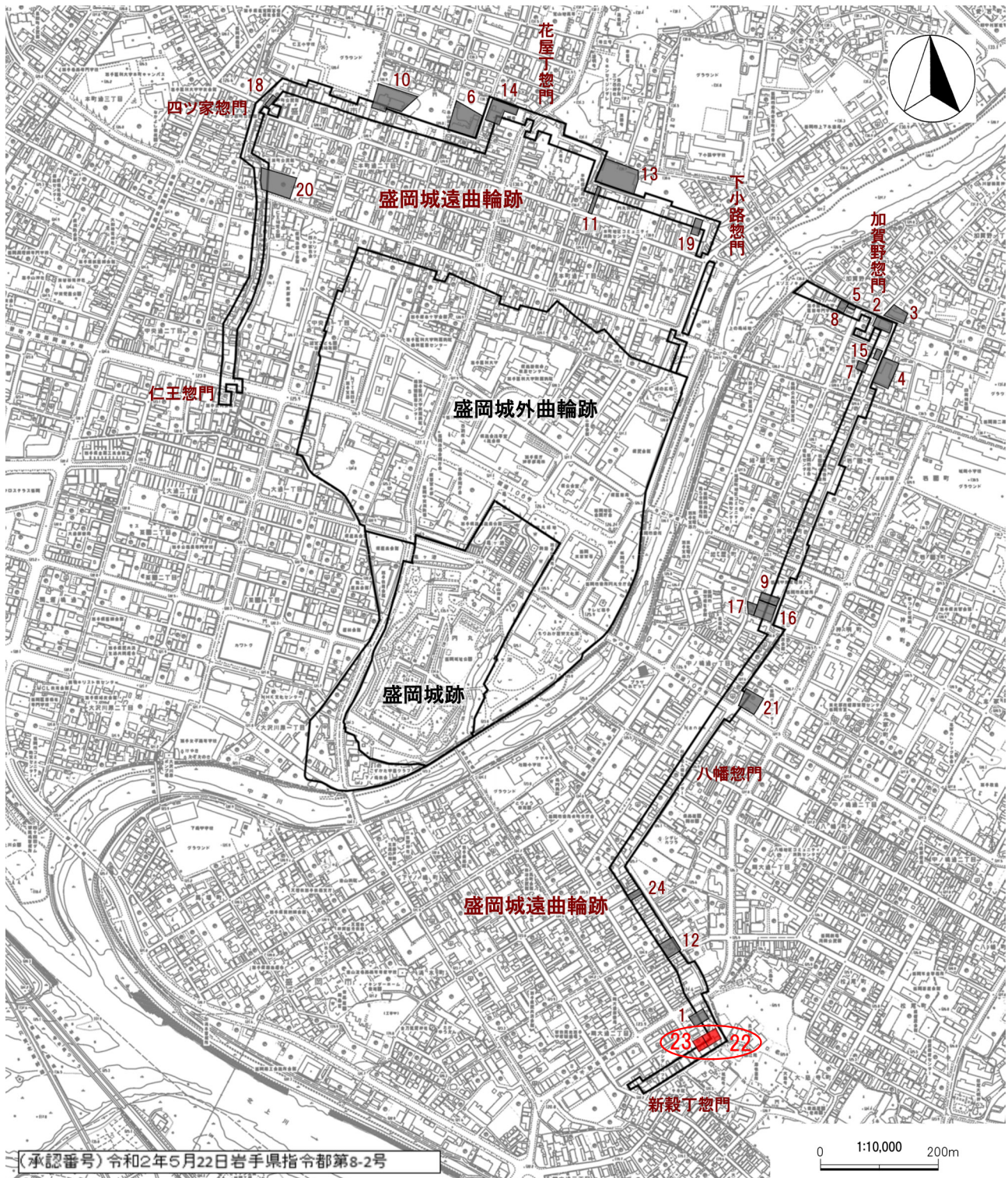
近世城郭である「盛岡城」は盛岡市の中心部に位置し、その城下町は岩手県の県庁所在地として栄えた近代以降の市街地の骨格となっている。豊臣政権下の慶長2年(1597)3月6日、戦国大名であった南部信直（盛岡藩祖）が嫡子利直（初代藩主）に命じて築城が始められた。藩政時代初期には三戸城（青森県三戸町）、福岡城（二戸市）、郡山城（紫波町）を居城としながら築城が進められたが、寛永10年(1633)5月に2代藩主南部重直が入城して以来、明治維新の廃藩置県に至るまで、南部氏の居城として存続した。

藩政の中核で「御城内」と呼ばれた内曲輪（史跡盛岡城跡）は、旧北上川と中津川の合流点の丘陵を利用して築かれており、本丸、二ノ丸、三ノ丸、腰曲輪は総石垣となっている。この内曲輪の北側、現在の内丸地区には堀と中津川、土塁で区画された外曲輪があり、藩主居館「御新丸」や重臣屋敷が存在した。そのさらに外側には堀と土塁を廻らした遠曲輪があり、外曲輪の西側、北側と、中津川を越えた北東側、東側、南東側、南側を囲んでいた。



第1図 盛岡城跡(御城内)・外曲輪跡・遠曲輪跡位置図

遠曲輪のうち、埋蔵文化財包蔵地「盛岡城遠曲輪跡」として登録されているのは絵図面と発掘調査成果から推定される堀跡と土塁跡の範囲であり、西辺は中央通1丁目・2丁目・本町通2丁目・3丁目、北辺は本町通1丁目・2丁目、北東辺は上ノ橋町、東辺は上ノ橋町・若園町・神明町・中ノ橋通1丁目・肴町、南東辺は肴町・南大通2丁目、南辺は南大通2丁目に所在する。遺跡の範囲は東西1,150m、南北1,700m、堀と土塁を合わせた幅約20～25mで総延長約3,300m。市街化している現在の標高値は、西辺



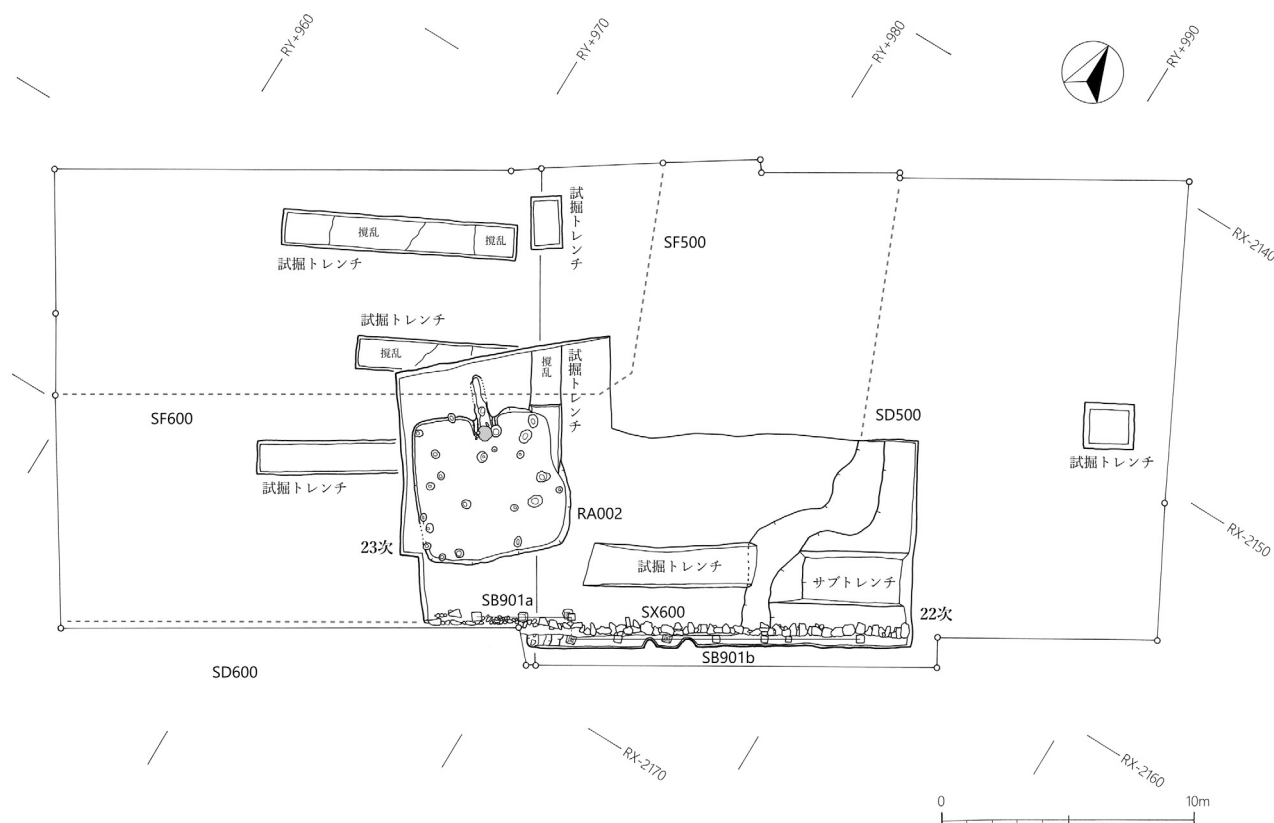
第2図 盛岡城跡遠曲輪跡全体図（赤丸は第22・23次調査区）

第2表 盛岡城遠曲輪跡第22・23次調査成果

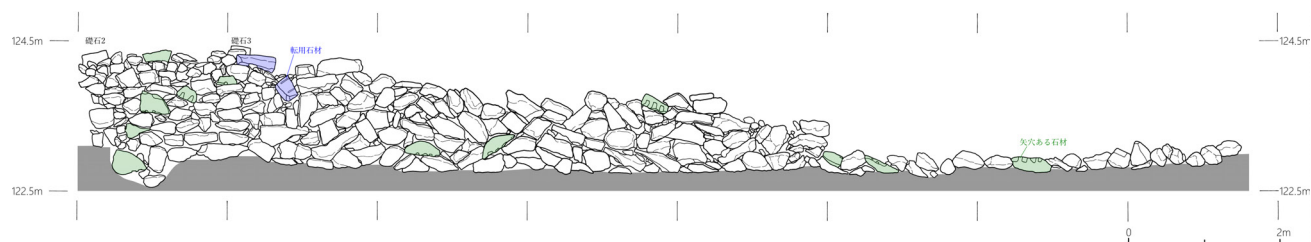
次数	年度	調査方法	調査地点	所在地	面積 (㎡)	調査期間	遺構・遺物	調査原因
22	R3	試掘・本調査	南東辺	南大通2丁目378-1, 379-8, 379-9	試 39 本 135	試 2021. 4. 28 本 2021. 6. 15～ 2021. 6. 29	古代堅穴建物1, 近世堀 (SD500) ・石垣 (SX600), 近代礎石建物1	会社事務所建築
23	R3	試掘・本調査	南辺	南大通2丁目378-4, 379-1	試 39 本 55	試 2021. 6. 8 本 2021. 7. 19～ 2021. 8. 3	古代堅穴建物1	寺院建築

が 126m 前後、北辺が 129～131m、北東辺が 130.0m 前後、東辺が 127～128m、南東辺が 124～126m、南辺が 123～124m である。盛岡城外曲輪及び遠曲輪を埋蔵文化財包蔵地として登録し（当初は一括して盛岡城堀跡遺跡と呼称）、立会調査を開始したのが平成元年度（1989）であり、試掘・本調査の開始は平成 10 年度（1998）、外曲輪跡と遠曲輪跡を区分するようになったのは平成 12 年度（2000）以降である。

令和3年度に実施した第22・23次調査の概要は第2表のとおりであり、縄文土器、古代の土器・土製品・石製品・鉄製品、中世～近世以降の陶磁器・鉄製品・古銭、近現代ガラス瓶、自然遺物として獣骨（焼骨）・貝殻・炭化材などが出土した。



第3図 盛岡城遠曲輪跡第22・23次調査区全体図 (1:300)



第4图 SX600石垣立面图 (1:100)

第3表 盛岡城遠曲輪跡第22・23次調査出土近現代ガラス瓶一覧表

			分類		寸法 (cm)				形態					栓種	色調・気泡等	標刻・印刷等	社名・商品名・製瓶会社等	年代
番号	遺構名	台帳No.	用途	細分	全高	口径	肩幅	底径	口部	首部	肩部	胴部	底部					
1	SX600	001	清涼飲料瓶	サイダー瓶	23.5	2.6	6.5	5.5	細口	長首	いかり肩	断面円形	平底	王冠	淡緑色透明	標刻肩「(NBKマーク)」・胴下環「(大日本麦酒株式会社製造) (右読み)・底「10 11」	大日本麦酒「三ツ矢シャンペンサイダー」「金線サイダー」(1933日本麦酒醸造との合併後)	昭和8年以降の昭和初期
2	SX600	002	薬瓶	一般用薬瓶	6.0	1.8	3.1×2.2	2.7×2.0	細口	短首	いかり肩	断面楕円形	平底	ガラス栓	褐色透明、気泡	標刻肩「稀ヨードチンキ」「くまるKSマーク」	小塚製薬(1935創業)か	昭和初期
3	SX600	003	薬瓶	目薬瓶	7.5	1.7	3.5×2.2	3.5×2.2	細口	短首	いかり肩	断面横長八角形	平底	コルク	無色透明、気泡	標刻肩「大目薬」・「参天堂薬房」、スボイト収納凹み	田口参天堂「大目薬」(1897発売)	大正期
4	SD600	006	化粧瓶	化粧クリーム瓶	5.3	5.0	5.8	5.6	広口	短首	円筒形	断面円形	平底	スクリュー	白色不透明	標刻胴彫刻風模様・ラベル枠・底「・」	平尾賛平商店 (1878-1954)「レートクリーム」(1909発売)か	大正～昭和初期か
5	SX600	005	化粧瓶 (代用陶磁器)	化粧クリーム瓶	4.5	3.8	4.8	5.1	広口	短首	円筒形	断面円形	平底	被せ蓋	白色 (釉薬)	標刻胴彫刻風模様・ラベル枠・底「★」	平尾賛平商店 (1878-1954)「レートクリーム」(1909発売)か	昭和10年代 (戦時下)
6	SX600	004	化粧瓶	化粧クリーム瓶	4.3	4.3	4.8	3.3	広口	短首	円筒形	断面円形	平底	スクリュー	濃紫色不透明	ベークライト蓋(赤褐色) 標刻「クラブ美身クリーム」(右読み)	中山大膳堂 (1903創業)「クラブ美身クリーム」(1911発売)	昭和初期～10年代
			分類		寸法 (cm)				形態						色調・気泡等	特徴等		年代
番号	遺構名	台帳No.	用途	細分	全高	口径	肩幅	底径										
7	SD600	007	食品瓶	紙め菓子瓶 (ペロペロ)	2.3	2.8	／	2.0	高台付サンデーカップ形						無色透明、気泡	全体的に表面摩滅		昭和20年代後半

(2) 第22・23次調査出土ガラス瓶 (第3表、第1図版)

遺跡から出土するガラス瓶を考古遺物として調査・分析する意義や手法については、『ガラス瓶の考古学』(桜井 2006, 2019 増補) を参考とし、その分類も基本的に準拠している。個々のガラス瓶の詳細や年代について以下に記述する。

①サイダー瓶 (第1図版1) : 日本に初めて炭酸飲料を伝えたのは、幕末に黒船で来航したペリー提督で、幕府の役人に炭酸レモネードを飲ませたといわれている。これが「ラムネ」の原型で、「ラムネ」の名称は英語の“Lemonade (レモネード)” がなまったものとされている。我々がよく知るガラス玉栓のラムネ瓶はイギリスのハイラム・ゴットが発案したものだが、明治25年(1892)にラムネ瓶の国内製造が開始されると、日本でラムネが大流行した。一方、「サイダー」の名称はフランス語の“Cidre (シードル：りんご酒)” からきたもので、アメリカのウィリアム・ペインターが王冠栓を発明すると、明治37年(1904)に「金線サイダー」が王冠栓を採用。以後、王冠栓のものをサイダー、ガラス玉栓のものをラムネと呼ぶようになったとされている。実際ラムネとサイダーの中身は基本的に同じだったが、設備を持つ大きな会社がつくるサイダーは高級品、零細業者がつくるラムネは大衆品になったのである。

さて、第1図版1は大日本麦酒のサイダー瓶である。大手の大阪麦酒(アサヒ)、日本麦酒(エビス)、札幌麦酒(サッポロ)が明治39年(1906)合併して誕生したのが大日本麦酒株式会社で、当時の市場占有率は約7割であった(端田 2016)。明治41年(1908)、デンマークのツボルグ社を見学した大日本麦酒社長の馬越恭平は、ビール会社がビールとともに清涼飲料水(炭酸飲料)を製造できることを知り、帰国後の明治42年(1909)に発売したのが清涼飲料「シトロン」で、大正4年(1915)に「リボンシトロン」と改称した。なお、日本で初めて本格的に流通したサイダーは、横浜の秋元巳之助が、炭酸水にリンゴのフレーバーを付けて「金線サイダー」の名で販売したものである。以前にあった「シャンペンサイダー」がパイナップルとリンゴのフレーバー由来だったことから、「シャンペン」の語を除いた「サイダー」という商品名にしたとされている。大正4年(1915)に金線飲料株式会社が設立されたが、大正14年(1925)には日本麦酒釀泉株式会社と合併している。そして「三ツ矢サイダー」は、明治21年(1888)発売の天然炭酸水「三ツ矢平野水」が始まりであり、明治40年(1907)に帝国釀泉がこれにサイダーフレーバー

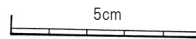


高さ23.5cm



1 サイダー瓶(大日本麦酒)-SX600

高さ6.0cm



2 一般用薬瓶「稀ヨードチンキ」-SX600

高さ7.5cm



3 目薬瓶「大學目薬」(田口参天堂)-SX600

高さ5.3cm



高さ4.5cm

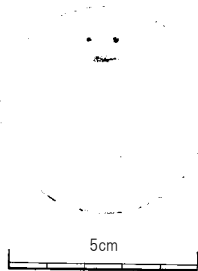


5 代用陶磁器化粧クリーム瓶
「レートクリーム」(平尾賛平商店)か
-SX600

高さ2.3cm



7 舐め菓子瓶-SD600

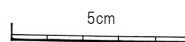


4 化粧クリーム瓶「レートクリーム」
(平尾賛平商店)か-SD600



高さ4.3cm

プラク
ム-リク美



6 化粧クリーム瓶「クラブ美身クリーム」
(中山太陽堂)-SX600

1～6は1:2、7は原寸

第1図版 盛岡城遠曲輪跡第22・23次調査出土ガラス瓶

エッセンスを加え「三ツ矢印平野シャンペンサイダー」を発売、人気となった。帝国鋳泉が加富登麦酒・日本製壘と合併し日本麦酒鋳泉となったのは大正 11 年(1922)。その後、日本麦酒鋳泉は昭和 8 年(1933)に大日本麦酒と合併している。これ以降、大日本麦酒は「リボンシトロン」「三ツ矢サイダー」「金線サイダー」を製造・販売することとなり、3 ブランド名併記の販促ポスターも製作された。

盛岡市細谷地遺跡第 37 次調査廃棄土坑出土例(盛岡市・盛岡市教委 2020)と、当時の広告チラシ(後述)等の描画から、胴部下端に陽刻「●大日本麦酒株式會社製造(右読み)」がある自動製瓶・淡緑色透明・いかり肩のサイダー瓶には、以下の 3 類が確認できる。

a 類：肩部に陽刻がないもの(第 2 図版 8)

b 類：肩部に「<DNB マーク>」(大日本麦酒の英字表記“Dai Nippon Brewery”頭文字の記号化)があるもの(第 3 図版 10)

c 類：肩部に「<NBK マーク>」(日本麦酒鋳泉の英字表記“Nippon Beer Kosen”頭文字の記号化)があるもの(第 1 図版 1)

昭和 11 年(1936)刊行の『大日本麦酒株式會社三十年史』によると、大正 9 年(1920)に日本硝子工業株式会社を合併してオーエンス式自動製瓶機の特許権を取得、保土ヶ谷工場と尼崎工場で清涼飲料水瓶を製造、と記述されている。また同本写真図版に c 類で「三ツ矢シャンペンサイダー」「金線サイダー」ラベルの製品が確認できる(第 2 図版 9)。よって 3 種類の瓶が存在する理由は以下のように、大日本麦酒と日本麦酒鋳泉の 2 社合併に伴い、ブランド系列を瓶の陽刻で区分する必要性が生じたためであろう。

a 類瓶：大正 9～昭和 8 年(1920～33)に清涼飲料水の製造に使用

b 類瓶：昭和 8 年(1933、2 社合併)以降に「リボンシトロン」系の製造に使用

※肩部陽刻「<DNB マーク>」は大日本麦酒のビール瓶に共通

c 類瓶：昭和 8 年(1933、2 社合併)以降に「三ツ矢シャンペンサイダー」系の製造に使用

※肩部陽刻「<NBK マーク>」は日本麦酒鋳泉のビール瓶に共通

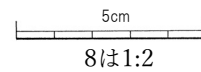
②一般用薬瓶(第 1 図版 2)：市販薬である一般用薬の瓶であり、胴部陽刻「稀ヨードチンキ」「<まる KS マーク>」が見られる。口縁部内面が摩りガラス状となっていることから、ガラス栓と考えられる。小型で無色透明、気泡が多く、人工吹きである。ヨードチンキは、ヨウ素(ヨード)の殺菌作用を利用した殺菌薬・消毒薬のことで、通常、消毒に用いられるのは 2 倍に希釈した希ヨードチンキである。1970 年代以前、ヨードチンキはマーキュロクロム液(通称「赤チン」)とともに家庭用消毒剤として広く普及していた。明治・大正～昭和初期に「<まる KS マーク>(もしくは<まる SK マーク>)」を用いていた製薬会社を特定できなかったが、令和 4 年(2022)現在も「希ヨードチンキ」の商品名で殺菌消毒液を販売している小堺製薬の創業が昭和 10 年(1935)であり、英字表記“Kozakai Seiyaku”の頭文字を記号化したガラス瓶用マークであろうか(小堺製薬ウェブサイトによると正式な会社ロゴマークは別にある)。

③目薬瓶(第 1 図版 3)：ガラス管による点眼管(スポイト)が付属していた田口参天堂「大學目薬」で、明治 30 年(1897)発売。「大學目薬」は、当時ドイツより招聘された東大医学部ベルツ博士の肖像イメージを図案化した商標で売り出していた。無色透明、少し気泡のある人工吹き瓶である。角型瓶の一角が凹み点眼器を収納して外箱に入れることができる。当該形状瓶を「縦溝付一口式目薬瓶」と呼称する市村 2010 では、「大學目薬」瓶について、遺跡出土例から器高・胴部銘の細分を行い、広告資料の変遷から書体の変遷(実年代)を設定し、それらが連動する 3 段階を推定している。3 は高さが 7.5 cm あることから器高 A(大瓶、1 圓)で、胴部銘の特徴は第 3 段階(1924～1930 年)とみられる。



高さ23.4cm

◎ 造製社會式株酒麥本日本大



8 サイダー瓶(大日本麦酒)-細谷地遺跡第37次調査RD911〔肩部陽刻なし〕



9『大日本麦酒株式会社三十年史』写真図版の一部〔三ツ矢シャンペンサイダー・金線サイダー瓶肩部陽刻「<NBKマーク>」〕

第2図版 細谷地遺跡出土サイダー瓶と関連資料

④化粧クリーム瓶（第1図版4～6）：西洋風化粧が一般に普及したのは明治後期からであるが、その時期には化粧水や化粧クリームといった基礎化粧品の国産品が開発され、化粧品メーカーも次々と設立された。4は平尾賛平商店「レートクレーム」（明治42年(1909)発売）であり、化粧クリーム瓶に一般的な白色不透明瓶で、製品は胴部の円形陽刻に紙ラベルが貼られ、金属蓋がつく。6は中山太陽堂「クラブ美身クリーム」（明治44年(1911)発売）であり、濃紫色不透明瓶で、陽刻のあるベークライト（フェノール樹脂）蓋が残存している。ベークライト（フェノール樹脂）は、1907年にベルギー出身のアメリカ人化学者であるレオ・ヘンドリック・ベークランドが開発した、最初のプラスチック素材であった。なお、類例を見る限りではあるが、化粧クリーム瓶に濃紫色～黒色瓶が使用されるのは昭和初期～10年代頃の戦時下物資不足の時期である（杉並区立郷土博物館分館2009）。5は昭和16年(1941)以降の戦時下に使用された代用陶磁器瓶（「レートクレーム」か）で、製品は蓋も陶磁器の被せ蓋であった。底面に小さな星型の陽刻があり、旧陸軍向け男性用商品（ポマード瓶）の可能性もある。ちなみに、大正から昭和初期にかけては、大阪の中山太陽堂（クラブ化粧品）と東京の平尾賛平商店（レート化粧品）が二大勢力となり、「西のクラブ、東のレート」と呼ばれ、様々な販売促進活動を繰り広げ、人々の注目を集めたという（佐野宏明編2019）。

⑤舐め菓子瓶（第1図版7）：通称「ペロペロ」と呼ばれる、直径2～3cmの小さいサンデーカップや優勝カップのような玩具瓶。戦後の1950年代から出回った子どもの駄菓子で、溶かした砂糖にニッキやハッカの味をつけて固めたものがカップの中に入っていた。この瓶を持ってペロペロと舐めることからの愛称であり、食べ終わったあとは子どもの玩具として楽しむことができたという（平成ボトルクラブ監修2017）。少し緑がかった無色透明であるが気泡や歪みがあり、摩擦痕が多く見られる。

5. 近現代ガラス瓶関連資料

先述した第3図版10は、令和元年度に開催された遺跡の学び館テーマ展「透きとおった記録ーガラスに見る明治・大正・昭和ー」で展示した大日本麦酒「リボンシトロン・ナポリン」の広告チラシ（筆者蔵）である。製作年代については、下記のように推察している。

●「シトロン」（明治42年(1909)発売）から「リボンシトロン」に改称したのが大正4年(1915)、「ナポリン」の発売は明治44年(1911)であることから、大正4年(1915)以降であることは確実。

●ビール3ブランドのうち「エビスビール」「サッポロビール」の記載はあるが、「アサヒビール」の記載がない理由について、「アサヒビール」が製造されていた吹田工場では清涼飲料水がまだ生産されていなかったためとすれば、製造ラインが設置された大正9年(1920)以前となる。

●上記の傍証ではあるが、年代が明確な大正11年(1922)の雑誌広告（第3図版11、筆者蔵）には、ビール3ブランド「アサヒ」「サッポロ」「エビス」と「清涼飲料リボンシトロン」の名が1枚の中にある。

以上から、この広告チラシの製作年代は、大正4～9年(1915～20)と考えてよいであろう。当時のリボンシトロンの小売価格は、大正9年(1920)で1箱4ダース（48本）11円50銭（1本約24銭）。そば・うどん1杯8～10銭の時代に、サイダーは庶民にとって高級品であったが、リボンブランド採用で売れ行きは好調だったという（サッポロビール株式会社1996）。この期に乗じてリボンシトロンを「最高級」「永年絶対的信用ヲ独占セル」とイメージアップしながら、同価格の姉妹品ナポリンの販売も促進しようと販売店に配布されたのが、当該広告チラシと考えられる。

縦19.5cm×横27.0cm



10 「リボンシトロン・ナポリン」(大日本麦酒)広告チラシ〔筆者蔵、肩部「<DNBマーク>」、大正4～9年(1915～20)か〕

縦24.5cm×横19.5cm



11 「アサヒ・サッポロ・エビスビール」「清涼飲料リボンシトロン」(大日本麦酒)雑誌広告〔筆者蔵、大正11年(1922)〕

6. まとめ

以上、前項まで記述した内容をまとめ、補足を加える。

(1) 岩手県埋文および県内市町村教委刊行の発掘調査報告書を検索し、写真や実測図等で近現代ガラス瓶（代用陶磁器瓶含む）の掲載があるものを集計すると、2000～2021 年刊行の 25 件の発掘調査報告書に近現代ガラス瓶 498 点が掲載されていた。内訳は、県埋文が 2004 年以降 17 件の発掘調査報告書に近現代ガラス瓶 174 点、市町村が 2000 年以降 8 件の発掘調査報告書に近現代ガラス瓶 324 点となっている。県埋文・市町村とも、出土点数が多い発掘調査では、近世～近現代の大きな屋敷地が調査対象となっている点が共通している。県埋文調査の下構遺跡は、近世文書に「下構屋敷」と記載され、由来は寛永 19 年(1642)に遡るという。一戸町教委調査の朴館遺跡は、国指定重要文化財「旧朴館家住宅」（主屋は文久 2 年(1862)建築の直屋）の屋敷地であり、享保 12 年(1727)から延享元年(1744)の間に当該地へ移り住んだという。既存の「周知の埋蔵文化財包蔵地」を対象として、近世以前の遺構・遺物を発掘調査する中で、近世から続く屋敷地で検出された遺構の廃絶年代を明示する資料として、一定量の近現代遺物、特にガラス瓶の回収・報告を行った県埋文の下構遺跡の発掘調査は、県内の近現代考古学を語る上で画期的といえよう。一方で、近代化遺産や戦争遺跡の発掘調査として近現代ガラス瓶が報告された例はない。なお、都道府県単位で近現代ガラス瓶の発掘調査報告書掲載点数を集計した例としては、九州の宮崎県があり（竹田 2022）、20 遺跡 195 例と報告されており、岩手県より少ない。ただし岩手県は突出している盛岡市教育委員会の 6 件 303 点を除くと 19 件 195 点であり、宮崎県とほぼ等しい数字となっている。

(2) 盛岡市教育委員会では、遺跡の学び館での展示会を契機として、国指定重要文化財や国登録有形文化財といった近代化遺産・建造物だけでなく、近現代の生活資料（陶磁器・ガラス瓶等）を「埋蔵文化財」として位置付けるべく、2012 年以降、発掘調査で近現代遺物を可能な範囲で回収し、報告書への掲載に努めてきた。そして、土地区画整理事業に伴う細谷地遺跡第 37・38・40・41 次調査の報告書では、テストケースとしてカラー写真と陽刻（エンボス）拓本を用いて廃棄土坑出土近現代ガラス瓶について最大限の資料掲載と年代等考察を行った結果、その年代幅は、明治・大正～昭和の戦時下、戦後～昭和 50 年代にまで及び、また個体数の組成が全国の都市近郊農村部と共通することが示された。しかし、今後も引き続き文化財保護法に定義する「埋蔵文化財」の範囲を近現代に拡大し続けることについては、①それに係る経費や人員を予算化するコンセンサスを行政・民間の事業者から得られるのか、②近現代遺物の包蔵範囲を全て「周知の埋蔵文化財包蔵地」に追加するのか、③昭和 20 年(1945)の終戦を境として近代（明治～戦前・戦中）と現代（戦後）で取り扱いを分けるべきでは、といった問題提起がある。

(3) 盛岡城遠曲輪跡第 22・23 次発掘調査で発見された、幕末の石垣に重複した明治期の寺院建物周辺から出土した近現代ガラス瓶と、それに関連する筆者所蔵の広告チラシ・雑誌広告を紹介した。廃棄土坑等からの一括出土ではないことから、ガラス瓶の種類も点数も少ないが、旧城下町から続く明治以降の中心市街地の一角から出土した資料として貴重である。特に戦後 1950 年代頃の舐め菓子瓶（通称「ペロペロ」）は、近年まで郊外農村地域であった細谷地遺跡では出土していない。また、これほど少ない点数の中に戦時下の代用陶磁器瓶があることが驚きであり、約 80 年前の日中戦争・太平洋戦争が民間人である庶民の生活に与えた影響の大きさが実感される。本来伝えられるべき地域の庶民生活史を復元する上で、今に残る近現代遺物は確固たる物証であり、その重要性の評価が高められるべきと考える。

〔引用参考文献〕

- 市村慎太郎 2010「近現代ガラス製目薬瓶の型式学研究」『大阪文化財研究』第 37 号
- 神原雄一郎 2011『盛岡の地中から発見されたガラス瓶 明治から昭和にかけてのガラス瓶』盛岡市遺跡の学び館
- 小林克・小川望 2007「近現代考古学会の活動と近・現代考古学」『考古学が語る日本の近現代』ものが語る歴史 14 同成社
- 河本純一 2020「宮古市根井沢穴田IV遺跡出土のサイダー瓶」『紀要』第 39 号（公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
- 櫻井準也 2007「近現代考古学の諸問題」『季刊 考古学』第 100 号
- 桜井準也 2006『ガラス瓶の考古学』六一書房（2019 増補）
- サッポロビール株式会社 1996『サッポロビール 120 年史』
- 佐野宏明編 2019『モダン図案 明治・大正・昭和のコスメチックデザイン』光村推古書院
- 杉並区立郷土博物館分館 2009『企画展「硝子壺の残像－ガラスびんに映った杉並の風景－」展示図録』
- 大日本麦酒株式会社 1936『大日本麦酒株式会社三十年史』
- 竹田享志 2022「宮崎県内出土の近現代ガラス製品の報告例について」『宮崎県埋蔵文化財センター研究紀要』第 7 集
- 平成ボトルクラブ監修 2017『日本のレトロびん』グラフィック社
- 端田晶 2016『ぶはっとうまい～日本のビール面白ヒストリー 大日本麦酒の誕生』雷鳥社
- 港区教育委員会 2022『概説 高輪築堤』

〔発掘調査報告書〕

- （財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2004『下構遺跡第 2 次発掘調査報告書 ほ場整備事業（一関第 2 地区）関連遺跡発掘調査』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 446 集
- （財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2006『河崎の柵擬定地発掘調査報告書 床上浸水対策特別対策事業関連遺跡発掘調査』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 474 集
- （財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2007『押切遺跡発掘調査報告書 一関遊水地事業衣川左岸築堤工事関連遺跡発掘調査』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 493 集
- （財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2007『川口 I 遺跡第 2 次発掘調査報告書 一般県道上斗米金田一線豊年橋地区道路整備事業関連遺跡発掘調査』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 521 集
- （財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2010『坪刈 II 遺跡発掘調査報告書 胆沢ダム建設事業関連遺跡発掘調査』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 554 集
- （財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2010『合野遺跡・小林繁長遺跡発掘調査報告書 経営体育成基盤整備事業白山地区関連遺跡発掘調査』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 570 集
- （財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2011『細谷地遺跡第 24・25 次・向中野館遺跡第 12・13 次発掘調査報告書 盛岡南新都市土地区画整理事業関連遺跡発掘調査』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 577 集
- （財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2011『矢盛遺跡第 23・24 次発掘調査報告書 盛岡南新都市土地区画整理事業関連遺跡発掘調査』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 578 集
- （財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2011『南日詰小路口 I・II 遺跡発掘調査報告書 経営体育成基盤整備事業南日詰地区関連遺跡発掘調査』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 584 集
- （公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2012『尾肝要 I 遺跡・姫松 I・II 遺跡発掘調査報告書 一般国道 45 号尾肝要道路建設事業関連遺跡発掘調査』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 592 集

- (公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2013『堤遺跡発掘調査報告書 経営体育成基盤整備事業都
島2地区関連遺跡発掘調査』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第615集
- (公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2018『根井沢穴田 IV 遺跡発掘調査報告書 三陸沿岸道路
建設関連遺跡発掘調査』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第683集
- (公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2018『浜川目沢田 I 遺跡発掘調査報告書 大沢地区漁業集
落防災機能強化事業関連遺跡発掘調査』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第689集
- (公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2019『町屋敷遺跡発掘調査報告書 一般国道水沢東バイパ
ス建設事業関連遺跡発掘調査』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第693集
- (公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2020『青猿 I 遺跡発掘調査報告書 三陸沿岸道路建設事
業関連遺跡発掘調査』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第711集
- (公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2021『間木戸 I 遺跡発掘調査報告書 三陸沿岸道路建設事
業関連遺跡発掘調査』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第723集
- 一戸町教育委員会 2017『平成27・28年度町内遺跡発掘調査報告書 朴館遺跡』一戸町文化財調査報告書第72集
- (財)水沢市埋蔵文化財調査センター 2000『下植田遺跡 I 農林漁業用揮発油税財源身替農道整備事業に伴う
緊急発掘調査』水沢市埋蔵文化財調査センター調査報告書第14集
- 盛岡市教育委員会 2016『志波城跡 平成23・24・25年度発掘調査報告書』
- 盛岡市・盛岡市教育委員会 2019『向中野幅遺跡 第3・4次調査 盛岡市新産業等用地整備事業に伴う発掘
調査報告書』
- 盛岡市・盛岡市教育委員会 2020『盛南地区遺跡群発掘調査報告書XII 道明地区土地区画整理事業関連遺跡
平成29年度発掘調査 細谷地遺跡』
- 盛岡市・盛岡市教育委員会 2021a『盛南地区遺跡群発掘調査報告書XIII 道明地区土地区画整理事業関連遺
跡平成30・令和元年度発掘調査 細谷地遺跡』
- 盛岡市・盛岡市教育委員会 2021b『盛南地区遺跡群発掘調査報告書XIV 道明地区土地区画整理事業関連遺
跡平成30・令和元年度発掘調査 細谷地遺跡』
- 盛岡市教育委員会・株式会社駒木葬祭・宗教法人連正寺 2022『盛岡城遠曲輪跡 第22・23次調査 会社事
務所・寺院建設に伴う緊急発掘調査報告書』